

平成30年度 春季入学式式辞

きびしかった冬を乗り越え、春の日差しを感じる季節になりました。本日ここに、PTA 会長様、中央幼稚園様、桑園地区町内会の代表の皆様をお迎えして市立札幌大通高等学校平成30年度春季入学式を挙行できますことに感謝申し上げます。

さて、先ほど、入学許可を行いました新入生の皆さん、そして、転入・編入で入学する皆さん、皆さんは自分の意思で本校を受験し、選考の結果、選ばれて合格しました。入学おめでとうございます。

さて、10年前に初代守屋校長は、『何か事情があつて学習できなかった人でも、やり直しのできる、人生をリセットできる学校を作りたい』と話し、他の高校とは違う、様々なシステムを作ってくださいました。

第3代佐々木校長は、『他の高校は列車のようで、その列車に座って勉強していれば、卒業という駅に自然と連れて行ってくれるけど、大通高校では、自分で好きな勉強を自由に選んで学習はできるが、自分でやらなければならない。つまり、自転車に乗っていて、自分の好きな場所に寄れるし、ゆっくりも早くも行けるけど、自分の脚で漕がなければ目的地に行けない。』と話していました。回りの人と比較する必要はありません。相手と同じ場所に寄る必要はないのですし、相手と同じペースで漕

がなくともいいのです。しっかり自分の目標を見て、確実に自分のペースで漕いで進んでください。

保護者の皆様、お子様のご入学おめでとうございます。中学校の卒業式で成長したお子様の姿を確認したところではありますが、高校の15歳から18歳はシチズンシップ教育、つまり、市民として他人を尊重したり、多様な価値を理解したり、円滑な人間関係を築く大切な時期です。そのために、自己肯定感や自己有用感が必要です。簡単に言い換えれば、自分が必要とされている、役に立っている、愛されていると感じることが大切です。

『ポジティブな会話』

『栄養と愛情のある食事』

『安心して休める寢床』

の提供をよろしくお願いします。

さあ、生徒の皆さん、今、保護者の方にもお願いしました。地域の方も見守ってくれています。本校の職員も全力で皆さんを応援します。ちえりあ講座で札幌市民も一緒に教室で学びます。明日からの高校生活を自分のペースでしっかり歩いていきましょう。

平成30年4月10日

市立札幌大通高等学校 校長 佐藤 昌弘